

国見町指定無形民俗文化財

鹿島神社 例大祭

鹿島神社例大祭が10月23日と24日、旧奥州街道藤田宿を中心に行われました。秋晴れのもと、神輿と若連の山車、稚児が華やかに町内を練り歩き、多くの人を魅了しました。また、例大祭最大の見どころである「もみ合い」には、その様子を間近で見ようと多くの観客が訪れました。若連衆の勇ましいかけ声、山車と山車が神輿を挟んでぶつかり合う音が夜空に響き渡り、祭りの盛り上がりは最高潮を迎えます。4町若連の山車により、神輿が鹿島神社へ無事に送り届けられ、宮入りを終えると、町は静けさを取り戻し、秋の気配が深まっていきます。



伝統を受け継ぐ 若者たち



「歴史を活かしたまちづくり講演会」

鹿島神社例大祭に合わせて国見町は10月17日、観月台文化センターで歴史を活かしたまちづくり講演会を開催し、約70名が参加しました。

講演会では「錦町太鼓保存会」がお囃子を披露し、村川友彦福島県史学会会長から、鹿島神社例大祭の起源や本祭礼の特徴である「もみ合い」について説明がありました。来場者からは「今までなんとなく見ている祭礼の意味がよくわかった」などの感想がありました。

「ガイドブック」

国見町歴史まちづくりフォーラムは、鹿島神社例大祭のガイドブックを作成しました。ご希望の方はお問い合わせください。

◆問い合わせ 企画情報課
歴史まちづくり推進室
☎585・2967